

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

# NDL 書誌情報ニュースレター

2017年2号(通号41号)

## 目次

Linked Web NDL Authorities と GeoNames.jp—典拠データの利活用事例紹介 (協力:松澤有三さん 聞き手・構成:NDL 書誌情報ニュースレター編集委員会)	1
NDC10(テン)やワン!や (国内資料課 NDC10 版検討班)	6
コラム:書誌データ利活用(11)—利活用事例の紹介(浦安市立図書館) (収集・書誌調整課 篠田麻美)	13
お知らせ:平成 29 年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会 を開催します (収集・書誌調整課)	15
お知らせ:平成 28 年度書誌データ統計を掲載しました (収集・書誌調整課)	17
掲載情報紹介	18

## Linked Web NDL Authorities と GeoNames.jp—典拠データの利活用事例紹介

### 【はじめに】

国立国会図書館では、作成・維持管理している典拠データを [Web NDL Authorities](#) ([国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス](#)) で公開・提供しています[1]。ウェブでの利用可能性を考慮し、コンピュータが理解して処理できる形、つまり、ウェブでつなげることができる Linked Data として提供しています[2]。

このたび、当館の典拠データの利活用について、ICT コンサルティング等の事業を行う [インディゴ株式会社](#) の松澤有三さんにお話を伺いました。松澤さんは、Web NDL Authorities の典拠データに Wikipedia、DBpedia のデータをリンクし、人物の情報や人脈（人物間の関係）を視覚的に表現する「[Linked Web NDL Authorities](#)」を公開しています。また、Web NDL Authorities と、Linked Open Data のための地理空間情報の基盤となる「[GeoNames.jp](#)」の [リンクセット](#) も公開しています。これは、それぞれに含まれる同一地名の URI をつないだものです。これら二つの事例について、ご紹介いただきました。

### 1. Linked Web NDL Authorities について

Linked Web NDL Authorities の概要について教えてください。

2015年11月に開催された「国立国会図書館のデータを使い尽くそうハッカソン」[3]に参加したことがきっかけで作ったアプリケーションです（図1参照）。

Web NDL Authorities で提供されている人物の典拠データについて、人物の説明を表示したり、関係のある人物へのリンクを表示したりできたらもっと使いやすくなるのではないかというアイデアが発端でした。

実現にあたって二つのリンクセットとそれを用いたアプリケーションを用意しました。

1. Web NDL Authorities と [DBpedia Japanese](#)[4]の同一人物をつなげたリンクセット（後述）。
2. Web NDL Authorities の人物間の「知人」関係をまとめたリンクセット。Wikipedia 日本語版のページ間のリンク関係を「知人」関係とみなして作成したものです。
3. Web NDL Authorities のページを模したデモアプリケーション。上記1、2のリンクセットのデータをもとに、Web NDL Authorities から取得した標目、生年、没年等の基本情報、DBpedia Japanese から取得した人物の説明、「知人」関係のリンク（図1の赤枠参照）が一つのページに表示されます。

このページは「国立国会図書館のデータを使いやすくするプロジェクト」のために作られた、実験を目的としたものです

**Linked Web NDL Authorities**  
「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス」の LOD 的機能拡張実験

夏目 漱石, 1867-1916

夏目 漱石 (なつめ そうせき, 1867年2月9日(慶応3年1月5日) - 1916年(大正5年)12月9日) は、日本の小説家、評論家、英文学者。本名、金之助(きんのすけ)。江戸の牛込馬場下横町(現在の東京都新宿区喜久井町)出身。俳号は愚陀仏。大学時代に正岡子規と出会い、俳句を学ぶ。帝国大学(後の東京帝国大学、現在の東京大学)英文科卒業後、松山で愛媛県尋常中学校教師、熊本で第五高等学校教授などを務めた後、イギリスへ留学。帰国後、東京帝国大学講師として英文学を講じながら、「吾輩は猫である」を雑誌『ホトトギス』に発表。これが評判になり「坊っちゃん」「倫敦塔」などを書く。その後朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」などを掲載。当初は余裕派と呼ばれた。「修善寺の大患」後は、『行人』『こゝろ』『硝子戸の中』などを執筆。「則天去私(そくてんきょし)」の境地に達したといわれる。晩年は腎臓病に悩まされ、「明暗」が絶筆となった。

ID	00054222
標目 (xl:prefLabel)	夏目, 漱石, 1867-1916 ■ Natsume, Soseki, 1867-1916 ■ ナツメ, ソウセキ, 1867-1916
生年 (rda:dateOfBirth)	1867
没年 (rda:dateOfDeath)	1916
関連リンク/出典 (skos:exactMatch)	<a href="http://viaf.org/viaf/sourceID/NDL%7C00054222">http://viaf.org/viaf/sourceID/NDL%7C00054222</a>
出典 (dct:source)	文化人名録 第26版 坊っちゃん
作成日 (dct:created)	1979-04-01
最終更新日 (dct:modified)	2016-08-08T10:48:21
本家サイトへのリンク	<a href="http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00054222">http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00054222</a>
外部サイトへのリンク	<a href="http://ja.dbpedia.org/resource/夏目漱石">http://ja.dbpedia.org/resource/夏目漱石</a>
知人 (foaf:knows)	<a href="#">稲垣達郎</a> <a href="#">魚住折麿</a> <a href="#">菅虎雄</a> <a href="#">崎野谷滋</a> <a href="#">中村光夫</a> <a href="#">生方敏郎</a> <a href="#">板垣直子</a> <a href="#">坂本育雄</a> <a href="#">三宅やす子</a> <a href="#">秦恒平</a> <a href="#">橋光利一</a> <a href="#">清水孝純</a> <a href="#">森嶋外</a>

人物の説明 (DBpedia Japanese から取得)

知人 (Wikipedia 日本語版から取得)

図 1 Linked Web NDL Authorities 画面例 (抜粋)

「1. Web NDL Authorities と DBpedia Japanese の同一人物をつなげたリンクセット」は、どのように作成しているのでしょうか？

当初は Web NDL Authorities と DBpedia Japanese のそれぞれの SPARQL Endpoint[5]から人物の名前・生没年を取得して完全一致するものだけを抽出していたのですが、表記の揺らぎや生没年の不備などが原因で漏れてしまう人物が多いのが悩みでした。

その後、[バーチャル国際典拠ファイル \(Virtual International Authority File; VIAF\)](#) で、VIAF に提供されている各機関の典拠データの識別子の対応関係が整備された[データセット](#)が公開されており、VIAF URI と Wikipedia URI、VIAF URI と NDL ID[6]の関係もそれぞれ整備されていることを知りました。現在は [Web NDL Authorities の SPARQL Endpoint](#) から取得した人物の NDL ID のリストをソースとして、VIAF のデータセット内の NDL ID→VIAF URI→Wikipedia URI の対応関係をたどることでリンクセットを作成しています。

Web NDL Authorities の典拠データをどのように利用しているか教えてください。

リンクセットやアプリケーションの作成過程で、Web NDL Authorities の SPARQL Endpoint を利用し、以下のような典拠データを取得しています。

1. Web NDL Authorities の典拠データにおける人物(個人名典拠)の一覧。上述のとおり、この中の NDL ID を一次データとして利用し、VIAF URI を介した Wikipedia URI とのリンクセットを作成しています。
2. 特定の人物の情報一式。ウェブブラウザ上で Linked Web NDL Authorities の HTML 画面(図 1 参照)を生成するのに利用しています。

## Linked Web NDL Authorities の利活用について、どのようなものを期待されていますか？

Web NDL Authorities では地名や出来事など多様な典拠データが整備されていますが、Linked Web NDL Authorities で扱っているのは今のところ人物だけです。

地名と人物、人物と出来事、といったようにリンクを増やしていくことで、典拠データがもっと使いやすくなるのではないかと考えています。

## 2. Web NDL Authorities と GeoNames.jp のリンクセットについて

まずは、GeoNames.jp の概要について教えてください。

[GeoNames.jp](http://GeoNames.jp) は、日本の都道府県から郡、市区町村、町名・字・丁目 にいたる地名を対象として、それぞれの地名に URI を付与した、地名の URI 基盤です (図 2 参照)。



図 2 GeoNames.jp の画面例

「<http://geonames.jp/resource/>」の後に都道府県から始まる地名を記述することで、URI として使用できるという特徴があります。たとえば、国立国会図書館のある千代田区永田町 1 丁目は「<http://geonames.jp/resource/東京都千代田区永田町一丁目>」という URI で表現され、人が閲覧できる HTML ページと機械処理用のメタデータをそれぞれ提供しています。

Linked Open Data はその名のとおりデータとデータのリンクを重視していますが、特に地名はさまざまなデータからリンクしやすいものと考えられています。世界的には、[GeoNames.org](http://GeoNames.org) というサービスが地名の URI 基盤として有名ですが、日本語の誤りや、日本の小地域地名の網羅性が低いことなどから、国内ではなかなか活用が進まない状況でした。一方、日本の地名に特化した GeoNames.jp はこのような課題を解決し、地名とさまざまなデータをつながりやすくすることを目的としています。

### **Web NDL Authorities と GeoNames.jp のリンクセットは、どのような点が期待できますか？**

GeoNames.jp では、Web NDL Authorities だけでなく、GeoNames.org や DBpedia Japanese、[統計 LOD](#)[7] など外部のデータセットに対して、同一地名をリンクしたリンクセットも公開しています。

これらのリンクセットは単体でそのまま役に立つようなものではないのですが、たとえば「東京都の〇〇年時点の人口を知りたい」といった場合に、Web NDL Authorities の地名典拠「[東京都](#)」の ID をソースとして、GeoNames.jp の地名の ID→統計 LOD の地名（都道府県、市区町村別）の ID→その地名に関する統計データ、といったように機械的にリンクをたどることができます。Web NDL Authorities とのリンクセットは、こうした必要なデータにアクセスできるようにするための基盤の一部となることが期待できます。

### **GeoNames.jp 自体については、どのような利活用が期待できるでしょうか？**

場所に関連する情報であればなんでもつなげられる、というのが GeoNames.jp の強みです。なかでも、統計分野や地理情報分野ではさまざまな機関から膨大なデータが提供されているので、このようなデータを相互につなぐためのハブとして GeoNames.jp が活用できたらいいですね。

また、特にアーカイブの分野では、過去に存在した地名をどうやって保存していくかが課題です。現在の GeoNames.jp でも、過去に存在した自治体名などは提供しているのですが、さらに粒度の細かい、消えてしまった町名なども収録していきたいです。

## **3. Web NDL Authorities を利用して**

### **Web NDL Authorities のデータの特徴や強みは、どのような点にあると思われましたか？**

技術的な話になってしまうのですが、データ構造の設計・配信ともに、ウェブの標準に忠実でとてもよいと感じています。データ構造に関しては、[FOAF \(Friend of a Friend\)](#) や [SKOS \(Simple Knowledge Organization System\)](#) といったよく使われる語彙を中心に設計されており、理解が容易でした。データも SPARQL Endpoint と個別の典拠データの URI を通じて取得することができ、用途に合わせて選択することができました。

### **最後に、Web NDL Authorities について、何か利活用のヒントがあればお聞かせください。**

Web NDL Authorities は、GeoNames.jp と同様にデータを持続的にリンクするための情報インフラとして重要だと考えています。派手で即効性のある応用というのはなかなか難しいかもしれませんが、持続的にデータをつなげていければいいなと考えています。

## **【おわりに】**

「データをリンクすると何ができるようになるのか？」という問いは、Linked Data を作成・提供する側、利用する側のそれぞれの立場で考えていく必要があります。松澤さんによると、Linked Web NDL Authorities は、その答えの一つであり、今後もこのテーマを継続的に考えていきたいとのことでした。

当館も、この問いに対する答えを探しながら、典拠データを Linked Data として持続的に提供していく必要があります。その際、持続できるだけでなく信頼のおけるデータであることは、新たなサービスやアプリケーションの基盤となる上で、非常に重要だと考えています。そこで、実際に当館の典拠データを使って作成された GeoNames.jp とのリンクセットや、Linked Data の効用が視覚化されている Linked Web NDL Authorities は、たいへん参考になりました。

もし「こんな使い方をしてみたよ」という事例がありましたら、ぜひ当館 ([bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp)) までお知らせ

してください。今後も Web NDL Authorities の利活用可能性を探り、よりよいサービスを提供できるよう努めたいと思います。

協力：松澤有三さん

(まつざわ ゆうぞう インディゴ株式会社)

聞き手・構成：NDL 書誌情報ニューズレター編集委員会

[1] Web NDL Authorities の概要については、以下のページをご覧ください。

Web NDL Authorities について

<http://id.ndl.go.jp/information/about/>, (参照 2017-03-29).

[2] 本誌 2015 年 1 号 (通号 32 号) に、Web NDL Authorities が提供している典拠データについて、Linked Data の観点からご紹介したコラムが掲載されています。

柴田洋子. コラム：書誌データ利活用 (6) —Web NDL Authorities 解説講座 その 1—ウェブでつながる典拠データ.

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_9103524\\_po\\_2015\\_1.pdf?contentNo=1#page=15](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9103524_po_2015_1.pdf?contentNo=1#page=15), (参照 2017-04-04).

[3] 地域や企業、学術の各分野を越えたさまざまなオープンデータをつなげて新たなアイデアやアプリケーション等を創出するイベントである「[LOD チャレンジ 2015](#)」および「[アーバンデータチャレンジ 2015](#)」の開催に合わせて、NDL が提供するデータを活用してツールやアプリケーションを作るハッカソンを実施しました。以下のページに、当日開発した試作品の概要等を紹介しています。

<https://lab.ndl.go.jp/cms/?q=hack2015>, (参照 2017-03-29).

[4] DBpedia は Wikipedia から情報を抽出し、Linked Open Data として公開するプロジェクトです。DBpedia Japanese は、Wikipedia 日本語版を対象にしています。

[5] SPARQL は、“SPARQL Protocol and RDF Query Language”の略で、Linked Open Data に適した形に構造化されたデータの検索や操作を行うためのコンピュータ言語です。SPARQL Endpoint は、あるコンピュータやデータベースに対するデータの検索や更新等の要求 (クエリ) を受け付ける場所です。Web NDL Authorities の SPARQL Endpoint は、<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla> です。

Web NDL Authorities における SPARQL の利用については、本誌 2015 年 2 号 (通号 33 号) のコラムもご覧ください。

洋子. コラム：書誌データ利活用 (7) —Web NDL Authorities 解説講座 その 2—いろいろ探せる SPARQL (スパークル) .

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_9394077\\_po\\_2015\\_2.pdf?contentNo=1#page=8](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9394077_po_2015_2.pdf?contentNo=1#page=8), (参照 2017-04-04).

[6] 本稿では、Web NDL Authorities の典拠データに付与されている固有の識別子 (ID) または URI を意味します。

[7] 統計 LOD は、総務省統計局が所管する国勢調査や経済センサス等の 7 種類の統計のうち、一部の統計データについて Linked Open Data 化したもので、政府統計の総合窓口 (e-Stat) で提供されています。

e-Stat 統計 LOD.

<http://data.e-stat.go.jp/lodw/>, (参照 2017-04-04).

## NDC10(テン)やワン!や

こんにちワン!カーネです。最近はずっと、[国立国会図書館\(NDL\)の月報](#)に出張しているので、ごぶさたしていました。

千鳥ヶ淵の桜を見ながら夜のお散歩をしていたら、聞き覚えのある声でにぎやかなおしゃべりが聞こえてきたので、のぞいてみたよ。あれは、NDLで書誌データを作っている人たちだ…。



(以下「カーネ」はカーネ、その他はNDLの職員(仮名)のセリフです)

NDL 全員：かんぱーい! (かちんかちん(グラスを合わせる音)) (注:業務時間外です)

きのこ：おつかれさまでしたー。

よしお：いやー、長かったねえ。

カーネ：こんばんワン!

とりこ：あれ、カーネじゃない。こんばんワン、もとい、こんばんは。

カーネ：長かったって、なあに?ぼくの胴のこと?

よしお：ちがうちがう、NDC10版検討班の仕事のことだよ。今日は打ち上げなんだ。

あさひ：そういえばカーネ、[月報6月号](#)でNDC10版のこと、先生に教わっていたよね。ちゃんと覚えてる?

カーネ：え、え、えーと。NDC10版は、たしか『日本十進分類法』新訂10版のことだったよね?合ってる?

(どきどき)

とりこ：合ってるよ。よく覚えてたね。えらいえらい。

カーネ：えっへん。それで、皆さんはNDLでNDC(うわ、ややこしいなあ)10版のことを検討してきたんだね。長かったって、どれくらい?

よしお：だいたい2年間ってとこかな。

カーネ：わー、そんなに?大変だったんだね。始めから詳しく聞かせてほしいな。

くりす：いつからだったっけ?んー、ちょっと待って。NDC10版が出版されたのが2014年12月で…。

きのこ：NDC10版検討班を国内資料課で立ち上げたのが、平成27年度の初めでした。それから約2年間の検討を経て、2017年4月に適用を開始したのです。

カーネ：え、でも分類表が新しくなったら、それに切り替えればいだけなんじゃないの?

NDL 全員：あまーい!!!

### 【分類基準をすみからすみまで見直して】

よしお：いろいろ準備があったんだよ。いちばん大変だったのは、分類基準の見直し。

カーネ：分類基準って？

とりこ：NDCの各分類項目に対して、NDLでの運用をどうするか定めたものことよ。NDCにはない言葉や概念を、どう分類するかを決めたりね。

くまみ：NDC9版が出版された1995年からおよそ20年の間に、世の中が大きく変わったでしょ？たとえば、「インターネット」関連の本は、図書館にたくさんあるけど、NDC9版には載っていないし。「ソーラーカー」みたいに、20年の間に大きく発展した技術についてもNDC9版にはないよね。そこで、[NDC9版の分類基準](#)では、NDC9版の「547.483 データ通信網」に対して、「インターネット<工学>は、ここに収める」とか、「537.25 電気自動車」に「ソーラーカーは、ここに収める」とか、決めてあったのよ。

やのち：これまでNDLが作成・提供してきた書誌データとの整合性を考えると、NDC10版の適用後も分類基準は大きく変えなくてよいのでは、という意見もあったんだ。でも、NDC10版の適用を機に、分類基準も全体的に見直すことになったの。

カーネ：見直して、どんな風にしたの？

きのこ：まずは、これまでの分類基準を一覧表にして、検討メンバーで分担しました。割り当てられた基準をNDC10版と照らし合わせて、継続する必要があるか考えました。NDC9版ではその適用方法があいまいだったために作られた分類基準の場合、NDC10版であいまいさがなくなっていることが確認できれば分類基準として残しておく必要はありませんから。

よしお：さっきの例で言えば「インターネット」(547.4833)はNDC10版で新たに分類項目ができたし、「ソーラーカー」(537.25)はNDC10版の相関索引[1]に載ったから、分類基準は削除したよ。

カーネ：そうか、分類基準がなくてもよくなったんだね。でも、そんなふうにさくっと決められるものばかりだったの？

NDL 全員：そんなわけ、ないない。

くまみ：割り当てられた人だけで決められないものは、意見を出し合って相談したんですよ。

とりこ：たとえば、NDC10版では料理の分類を、「596.2 様式別による料理法、献立」「596.3 材料別による料理法」「596.4 目的による料理」とかいろいろに分けているんだけど、和風ハンバーグ弁当は、和風だから様式別にもあてはまるし、お肉で作る材料別にもなりそうだし、弁当だから目的にも当てはまるし。こういう場合に、どの観点から分類するかを決めなくてはならなくて[2]。

くりす：いろんな分野のことを理解する必要があったから、あれこれ知恵がついたよ。キク科にはタンポポやアザミも含めて約2万種の植物があることとか[3]、柑橘類の植物学的な分類に諸説あることとか[4]。うちの子が、「お母さん、なんでそんなこと知ってるの？」って。

### 【補助表で悩みに悩み】

やのち：標準的な分類ということでは、補助表の運用についてずいぶん悩んだよね。

カーネ：補助表って？

きのこ：NDCの分類表にはあらかじめたくさんの分類項目が用意されているけど、それでは足りない場合には分類をする人が補助表を使って補うことができるんです。たとえば、犬…。

カーネ：ワン！



きのこ：…の辞書があったとします。それが、ペットという観点で犬を扱っている辞書だとすると、犬の分類記号(645.6)に事典を表す形式区分(-033)をつけて、645.6033となります。でも、NDLでは独自の運用で、4桁以上の分類記号に形式区分を適用しないことにしていました。さっきの例で言うと、645.6033にできるのだけど、NDLでは645.6で止めていました。

りょう：当初は、この独自ルールを撤廃して4桁以上でも形式区分を適用し、また形式区分の複合使用、つまり2種類の形式区分の合わせ技で理論・哲学(-01)と歴史的・地理的論述(-02)を一つの分類記号に適用する、といったことも、しようとしていたんだけど…。

やのち：その場合には、2種類の形式区分をどのように複合使用するか、明確なルールを作る必要があって、そうするとどうしてもNDCにないNDL独自のルールができてしまう。

きのこ：標準的な分類を目指しながら独自のルールを作るというのは、矛盾していると考えました。

あさひ：なかなか結論が出なくて、結局元のとおり、4桁以上には形式区分を適用しない、原則形式区分の複合使用はしない、とした結果…。

くまみ：それまでに検討してきた部分の、再見直しが発生してしまって…。

きのこ：見直しを終わらせて[分類基準](#)を公開し、そして適用を開始するという手順を考えると、判断はぎりぎりのタイミングだったと思います。

### 【なにが変わったかという点】

カーネ：それで、NDC10版になって分類はどう変わったの？

くまみ：2類の歴史で、日本の地方について時代によって区分できるようになったのは、意義が大きいと思うな。これまでは、日本の近世史(210.5)という分類はできても、千葉県近世史の本は千葉県の歴史(213.5)にとどまっていたから。

あさひ：日本各地の歴史(211/219)に固有補助表が追加されて、原始時代(-02)、古代(-03)…というふうにより時代細分できるようになったのよね。たとえば、千葉県の近世史は213.505。

資料種別	図書
請求記号	GC63-L106
タイトル	<a href="#">生実藩：将軍・秀忠に殉じた森川重俊で藩は始まる。海・川・道の拠点、生実藩一万石陣屋の世界。/</a>
タイトルよみ	オユミハン：ショウゲンヒデタダ ニジュンシタモリカワ シゲトシデハンワ ハジマルウミカワミチノキョテンオユミハンイチマンゴクジンヤノセカイ.
責任表示	西村慎太郎 著.
出版事項	東京：現代書館, 2017.2.
形態/付属資料	206p；21cm.
シリーズ	<a href="#">シリーズ藩物語</a>
注記	文献あり.
ISBN	978-4-7684-7144-9 :
価格等	1600円
全国書誌番号	22865963
他MARC番号	(JP-ToTOH)33569223
個人著者標目	<a href="#">西村, 慎太郎    ニシムラ, シンタロウ</a>
団体名件名	<a href="#">生実藩</a>
NDLC	<a href="#">GC63</a>
NDC(10)	<a href="#">213.505</a>

図1 NDC10版で時代区分した書誌データの例(千葉県の近世史なので「213.505」に)

資料種別	図書
請求記号	GC267-L75
タイトル	<a href="#">秋月藩：九州で最古の城下町、東西南北を結ぶ要路秋月。筑前文化の中心藩、偉才人が全国に轟く。／</a>
タイトルよみ	アキズキハン：キュウシュウ デサイコ ノジウカマチトウザイナンボク オムスブヨウロ アキズキ チクゼンブンカノ チュウシンハン イジンサイジンガ ゼンコクニトドク。
責任表示	林洋海 著。
出版事項	東京：現代書館, 2016.7.
形態/付属資料	206p；21cm.
シリーズ	<a href="#">シリーズ藩物語</a>
注記	文献あり。
ISBN	978-4-7684-7141-8：
価格等	1600円
全国書誌番号	22769589
他MARC番号	(JP-ToTOH)33467912
個人著者標目	<a href="#">林, 洋海    ハヤシ, ヒロミ</a>
団体名件名	<a href="#">秋月藩</a>
NDLC	<a href="#">GC267</a>
NDC(9)	<a href="#">219.1</a>

図2 NDC9版で分類した書誌データの例（内容は近世史だが、時代区分していない）

よしお：たとえば、公共図書館だったら、その地域の本に限って時代区分をする、というように選択的に運用してもよさそうだね。そしたら、郷土資料をすべて一か所に寄せなければならなかったのを時代で細かく分けられるようになって、郷土史に興味のある利用者にも探しやすくなるんじゃないかな。

くりす：あと、個人的に印象が強いのは、団体が主題の本には常に団体を表す形式区分（-06）を使えるようになったこと。これはNDCではなく、NDLでの運用の変更点なんだけど。これまで、その会社が正式に編集した社史でなければ、ある会社についての本でも会社の分野と存在する地域で分類していました（図3、図4）。

資料種別	図書
請求記号	DH22-G463
タイトル	<a href="#">京浜急行百年史／</a>
タイトルよみ	ケイビン キュウコウ ヒャクネンシ。
責任表示	京浜急行電鉄株式会社 編。
出版事項	東京：京浜急行電鉄, 1999.3.
形態/付属資料	682p；27cm.
全国書誌番号	20013162
団体著者標目	<a href="#">京浜急行電鉄株式会社</a>
団体名件名	<a href="#">京浜急行電鉄株式会社</a>
NDLC	<a href="#">DH22</a> <a href="#">DK53</a>
NDC(9)	<a href="#">686.067</a>
本文の言語	jpn
国名コード	ja
書誌ID	000002773413

図3 NDC9版で分類した書誌データの例（鉄道会社が編集した社史）

資料種別	図書
請求記号	DK53-L512
タイトル	<a href="#">京浜急行スゴすぎ謎学 /</a>
タイトルよみ	ケイビン キュウコウ スゴスギ ナゾガク.
責任表示	小佐野カゲトシ 著.
出版事項	東京：河出書房新社, 2016.6.
形態/付属資料	222p ; 15cm.
シリーズ	<a href="#">KAWADE夢文庫 ; K1040</a>
注記	企画・編集: 夢の設計社.
注記	文献あり.
ISBN	978-4-309-49940-6 :
価格等	620円
全国書誌番号	22753870
他MARC番号	(JP-ToTOH)33443334
個人著者標目	<a href="#">小佐野, カゲトシ, 1978-    オサノ, カゲトシ,</a>
団体名件名	<a href="#">京浜急行電鉄株式会社</a>
NDLC	<a href="#">DK53</a>
NDC(9)	<a href="#">686.213</a>

図4 NDC9版で分類した書誌データの例(鉄道会社が編集した社史ではない)

くりす：新しい分類基準では、どちらも同じNDC分類になるのよ。「鉄道会社」について調べている利用者にとっては、「鉄道」と会社がある「地域」ではなく、「鉄道」関係の「会社」であることの方が大事だと思っていたから、変更できてよかった…。

### 【ほかにもいろいろあったけど】

カーネ：分類基準のほかには、なにを準備したの？

きのこ：NDLSH(国立国会図書館件名標目表)の普通件名の代表分類も、分類基準が変わったところやNDC10版が変わったところから、鋭意見直し中です。

カーネ：フツーケンメーのダイヒョーブンルイ??「件名」は月報の[What's 書誌調整ふたたび第5回](#)で教わったけど、ダイヒョーブンルイって？

あさひ：そうねえ、たとえば「犬」…。

カーネ：ワン！

あさひ：…とか「図書館」とか「歴史」とかの、固有名詞ではない物や概念などを表すのが、普通件名。そして、その主題に対しておもに付与される分類記号を、あらかじめ割り当てておき、主題作業を効率的にできるようにしているのが、代表分類です。たとえば、カーネの「犬」…。

カーネ：ワン！

とりこ：カーネ、もういいから。

あさひ：えーっと、たとえば「犬」っていう件名があります。NDLC(国立国会図書館分類表)では、哺乳類(RA571)や犬・猫(RB651)という項目名があって、また、NDCでは哺乳類(489)の下位のイヌ科(489.56)や家畜・畜産動物・愛玩動物(645)の下位の犬(645.6)がある。犬について書かれていて、「犬」という件名を付与される書誌データは、今挙げたような分類記号が付与されることが多いので、489.56と645.6

を代表分類とするのね。当然、観点によって他の分類記号が適している場合もあるけど、まずは、この代表分類を一つの手がかりにして分類を考えるの。

きのこ：代表分類のNDCが10版になって変わったところはないか、逐一チェックしています。その作業はまだ続いていて、件名を書誌データに付与しようとして初めて代表分類も見直す、ということもあるから、しばらくかかりそうですね。

やのち：それと、研修！2017年の1月からは、検討班メンバーが先生役になって研修を何回もしたよね。

あさひ：30人以上の職員ひとりひとりがしっかりと理解できるようにするため、研修の準備も大変だったなあ。

カーネ：30人も参加すると、なんだか学校の授業みたいだね。

あさひ：毎日の作業を滞らせることなく新しいことを学ばないといけないので、研修ではおもな変更点を強調して伝えました。

くまみ：みんな、新しい版でちゃんと分類できるか不安がっていたね。

とりこ：やっぱり最初は作業量が落ち込んだけど、どうにか持ち直してきたし。

くりす：これからも、みんなのスキルを高めるために、時々研修をしていかないとね。

#### 【お疲れさまでした】

カーネ：2年間にわたる検討班の活動を終えて、どんな気持ちですか？

やのち：標準的なNDCを付与していくことで、全国の図書館や利用者にとってより役立つ書誌データとなり、ますますそれを活用していただけるようになるとうれしいです。

カーネ：一つの基準が新しくなると、こんなにたくさんの準備が必要だなんて、ぼく、知らなかったよ。2年という月日が皆さんには、ぼくの胸みたいに長くも、ぼくの足みたいに短くも感じられたんじゃないかな。

くりす：10版だけに、「テンやわんや」だったよう。

カーネ：2年間、皆さんお疲れさまでした！

NDL 全員：お疲れさまでした！

よしお：あらためて、乾杯しようか。

とりこ：カーネも飲む？

カーネ：ぼく、犬だから飲めません。

こうして、打ち上げはまだまだ続くのでした…。

(国内資料課 NDC10 版検討班)

#### ※お詫びと訂正

本記事の事例を一部訂正いたしました。

[1] 相関索引とは、分類項目名やその他の用語等を索引語として排列し、対応する分類記号を明示した一覧表で、NDC10版の第2分冊に収められています。

[2] 分類基準に、「目的による料理(596.4)は、様式と材料に優先して分類する」としました。「和風ハンバーグ弁当」は、596.4です。

[3] NDC10版の「627 花卉園芸」の下位に、「627.5 宿根草・多年草」「627.55 菊」という項目があります。この「菊」が、キク科の植物全体を指すのか、日本人が「菊」と聞いてイメージするいわゆる和菊を指すのか、NDC10版の本表からは分かりません。調べてみるとキク科には約2万種の植物があり、中にはタンポポやアザミなど園芸用ではない植物も多く含まれます。でも、花卉園芸の中の「菊」だから、きっとここにはタンポポやアザミを入れずに、園芸種としての「菊」を入れるべきなのだろうと考えました。しかし「和菊」という品種があるわけではないので、言い回しに苦労しました(結局分類基準は「花卉園芸に用いる各種の宿根草・多年草のうち、キク科全般は627.5に、和菊は627.55に」と決めました)。

[4] NDC10版の「625.3 柑橘類」の下位に、「625.32 みかん類」「625.35 きんかん類」「625.37 その他の柑橘類：レモン、オレンジ」とあるのですが、「類」ってどこまでを想定しているのでしょうか…ポンカンがミカン科だけど、ミカンに入れるのかその他に入れるのか悩んでいたら、無性にミカンが食べたくくなりました(結局、分類基準の「みかん類」にはウンシュウミカン種のみを収めることに決めました)。

## コラム:書誌データ利活用(11)―利活用事例の紹介(浦安市立図書館)

### 【はじめに】

国立国会図書館では、作成した書誌データをより広く活用していただく取組みの検討に役立てるため、当館の書誌データを利用している図書館の事例を調査しています。[本誌2016年4号\(通号39号\)のコラム](#)に引き続き、今回は、2016年11月15日に訪問した[浦安市立図書館](#)の利用事例についてご紹介します。

### 1. 浦安市立図書館について

浦安市立図書館は、中央図書館に加えて分館7館で構成され、市民に身近な図書館としてサービスを提供しています。図書約119万冊、雑誌約560タイトルの充実した蔵書を有する大規模な公立図書館です。特に、選書業務に力を入れています。正職員および有資格の非常勤職員のほぼ全員が各分野を分担し、原則として、現物を確認してから購入の可否を決定しています。資料の購入にあたっては、地元の書店協同組合を活用しています。図書館システムは京セラコミュニケーションシステム株式会社のELCIELOを導入し、MARCはおもに株式会社日販図書館サービスのNS-MARCを使用しているとのことでした[1]。

### 2. 当館の書誌データの利用状況

浦安市立図書館では、NS-MARCを補完する形で当館の書誌データを利用しています。たとえば、既存の書誌データのうち出版年が古く書誌事項が簡素なものについて、当館の書誌データを活用して修正したり、寄贈により受け入れた資料について、NS-MARCにデータがない場合の目録作成に利用したりしているということでした。作業手順としては、NDL-OPACで検索した該当資料の書誌データをMARC形式のファイルでダウンロードし、自館のシステム(ELCIELO)に取り込んだ後、必要に応じて各データ項目を修正してから利用しているそうです[2]。

新規に購入する資料については、選書に重点を置き、NS-MARCの利用により目録作成の効率化を図る業務フローが組み立てられています。一方、NS-MARCに収録されていない、出版年が古い資料や一般に流通しない資料の目録作成については、当館の書誌データを利用することで、作業の負荷を軽減させていることがわかりました。また、出版年が古い資料の書誌データの内容を、当館の書誌データにより補完し充実させていることもわかりました。

### 【おわりに】

調査にご協力いただいた浦安市立図書館の方々に心から感謝いたします。

このコラムでは、今後も当館の書誌データの利活用事例を調査し、紹介する予定です。当館の書誌データを業務やサービスに活用している事例がありましたら、ぜひ収集・書誌調整課書誌サービス係<[bib-dl@ndl.go.jp](mailto:bib-dl@ndl.go.jp)>までご連絡ください。

篠田 麻美

(しのだ あさみ 収集・書誌調整課)

[1] 株式会社日販図書館サービスは、2017年3月31日をもって事業を終了しました。浦安市立図書館では、2017年4月以降、NS-MARCの代わりに他の民間MARCを利用しています。

[2] ELCIELO の最新バージョンでは、国立国会図書館サーチの API に対応した機能が実装されているため、NDL-OPAC を利用せずに、当館の書誌データを直接取り込むことができます。

## お知らせ:平成29年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催します

平成29年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催します。おもな対象は公共図書館や学校図書館などの職員です[1]。

この研修会では、全国書誌データの具体的な活用方法と、レファレンス協同データベース事業の概要や事業に参加する利点を、まとめてご紹介します。また、受講者のみなさまには、全国書誌データを活用した文献リストの作成や、レファレンス協同データベースへのデータ登録を、実際に行っていただきます。

### <研修会の概要>

#### ・日時および会場

##### ○東京本館会場

日時：平成29年7月28日（金） 13時～17時（12時30分から受付開始）

会場：国立国会図書館東京本館 新館3階大会議室

申込締切：平成29年7月21日（金）

##### ○関西館会場

日時：平成29年8月18日（金） 13時～17時（12時30分から受付開始）

会場：国立国会図書館関西館 1階第1研修室

申込締切：平成29年8月11日（金・祝）

※定員は各回30名。先着順に受け付け、定員に達した時点で募集を終了します。

#### ・対象者

全国書誌データの利活用またはレファレンス協同データベース事業への参加に関心がある公共図書館、学校図書館等の職員をおもな対象とします。

#### ・内容詳細および申込方法

次のレファレンス協同データベースのページをご覧ください。

[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance\\_04.html](http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance_04.html)

#### ・申込みに関するお問い合わせ先

国立国会図書館 関西館図書館協力課 協力ネットワーク係

電話：0774-98-1475 FAX：0774-94-9117

メールアドレス：info-crd@ndl.go.jp

また、8月7日（月）、京都産業大学で開催される学校図書館夏期セミナーにおいて、当館が提供する書誌データの利活用についての発表を行う予定です。

（収集・書誌調整課）



[1] 平成28年度の研修会については、以下の記事をご覧ください。

収集・書誌調整課. 平成28年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会を開催しました. NDL 書誌情報ニューズレター. 2016年3号(通号38号), [http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_10191252\\_po\\_2016\\_3.pdf?contentNo=1#page=8](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10191252_po_2016_3.pdf?contentNo=1#page=8), (参照 2017-04-20).

平成27年度の研修会の講義部分を遠隔研修として提供しています。ぜひご覧ください。

・全国書誌データの利活用

<http://training.ndl.go.jp/course/under.html?id=50>, (参照 2017-04-20).

・レファレンス協同データベースの利活用

<http://training.ndl.go.jp/course/under.html?id=51>, (参照 2017-04-20).

## お知らせ:平成 28 年度書誌データ統計を掲載しました

平成 28 年度書誌データ統計を、「[統計からみた書誌データ \(平成 28 年度以降\)](#)」のページに掲載しました。内容は、資料種別ごとの書誌データ作成件数、雑誌記事索引データの作成件数、典拠データの提供件数、JAPAN/MARC 提供件数および分類別図書整理統計です。

また、以下のページに書誌データ作成の所要日数なども掲載していますので、ご覧ください。

- [平成 28 年度 サービス実績](#)

(収集・書誌調整課)

## 掲載情報紹介

2017年3月28日～2017年6月26日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧」を更新しました。](#)  
(掲載日：6月8日)
- ・ [「What's 書誌調整」のページを更新しました。](#)  
(掲載日：6月8日)
- ・ [文字種の取扱い基準\(2012年1月以降\)に基づく対応を行った文字一覧を更新しました。](#)  
(掲載日：6月2日)
- ・ [「JAPAN/MARC MARC21 フォーマットマニュアル単行・逐次刊行資料編」を更新しました。](#)  
(掲載日：6月1日)
- ・ [「統計からみた書誌データ\(平成28年度以降\)」を掲載しました。](#)  
(掲載日：5月24日)
- ・ [「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス\(Web NDL Authorities\)」のページを更新しました。](#)  
(掲載日：5月18日)
- ・ [「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧」を更新しました。](#)  
(掲載日：5月9日)
- ・ [英語版の「The Japanese National Bibliography \(JNB\)」を更新しました。](#)  
(掲載日：5月9日)
- ・ [雑誌記事索引採録誌一覧を更新しました。](#)  
(掲載日：5月1日)
- ・ [平成28年度書誌調整連絡会議報告\(概要\)と過去の会議一覧を掲載しました。](#)  
(掲載日：4月27日)
- ・ [国内発行オンラインジャーナルリストを更新しました。](#)  
(掲載日：4月21日)
- ・ [日本十進分類法\(NDC\)新訂10版の適用に関する情報を更新しました。](#)  
(掲載日：4月3日)
- ・ [これまでPDFファイルで提供してきた「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧」について、ページを新設しました。](#)  
(掲載日：3月31日)
- ・ [国立国会図書館分類表\(NDLC\)を更新しました。](#)  
(掲載日：3月31日)

**NDL 書誌情報ニュースレター (年4回刊)**

2017年2号(通号41号) 2017年6月27日発行

編集 国立国会図書館収集書誌部

発行 国立国会図書館

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp) (ニュースレター編集担当)